



- ハイパーフォーマーの働き方をデータを用いて可視化、企業共通のナレッジにし、従業員の育成に活用したい
- データを活用した定量的・効率的なマネジメントの実行により、組織全体のパフォーマンスをより向上させたい
- 従業員が抱える課題やボトルネックを正確に認識し、課題解決の支援に役立てるため、個々の行動データをロギングし、業務上のアクティビティをデータで把握したい

標準レポートとカスタマイズレポート

標準レポート

ダッシュボード (従業員単位)

- 多様な分析項目を詳細かつ、見やすくレポート化
- 多彩なフィルタを活用し、自在にセグメンテーションが可能
- データに含まれる従業員コードを行動データにタギング、従業員ごとの行動ログを指標や行動パターンなど自在に可視化
- ダッシュボードでは、マネジメント毎に所属する従業員の行動データのレポートを自動的に生成可能
- 予測分析に行動データを活用することで、ハイパーフォーマー候補のクラスタリングなどの拡張利用が可能

分析レポート例

製品標準搭載のレポートの一例。社員IDや部署名でフィルタをかけることで個々の行動データを可視化できます。

パス解析 ツリー図

ログインからの動線を追跡した例。従業員単位で行動のロギング・表示が可能。

ROI解析 グラフ

ROI解析: 3クリック (各子エッジポイント)

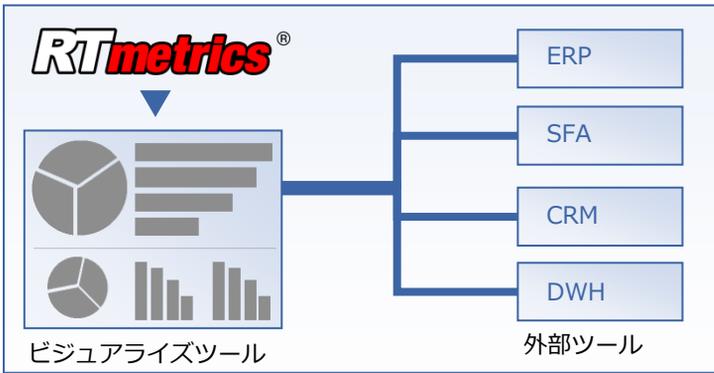
Referrer | Search Key | Landing Page

成果地点への到達数をレポートした例。従業員単位で成果地点への到達数・到達率を分析。窓口業務では商品詳細ページの表示数・率で担当者の来場顧客への提案状況を把握できる。

クロス集計 イベントレポート

ユニークユーザーID	セッション	PV	平均到達PV
1	145	3	71
2	1387	3	37
3	1268	3	37
4	1538	3	3
5	1099	2	70
6	1720	2	70
7	1013	2	70
8	1352	2	70
9	745	2	70
10	1631	2	70

見たい項目や集計軸を自由に指定し、アドホックに集計結果を確認、さまざまな分析に活用。上記は社員ID毎の指標を一覧表示した例。部署名や部署に所属する従業員など外部マスタを登録するカスタマイズにも対応可能。部門毎の結果をダッシュボードに登録するとマネジメントダッシュボードとして利用頂けます。



- 人事評価システムとの連携
人事評価と従業員毎のアクティビティの把握
従業員毎の社内サイトの閲覧・活用状況の把握
- 営業管理システムとの連携
ハイパーフォーマーの営業担当者の行動データの把握、
共通ナレッジ化による育成の強化
従業員毎のアクティビティ把握による業務上のボトルネックの可視化、ミドルマネジメントの解決支援力の強化

People Analytics データ分析例

データソース (一例)

行動ログ (社内Webアクセスデータ)

- Cookie ID・社員ID
 - 訪問日時
 - 閲覧ページ・遷移
 - 滞在時間
 - CVログ、等
- RTmetrics®でデータ収集

ERPデータ

- 社員ID+デモグラフィック
- 人事評価・売上金額、等

分析プロセスの概要

データ理解・統合

クラスター分析

ロジスティクス回帰+
Look a like分析

セグメント別
販売金額ポテンシャル導出

- データレイクによる
- ハイパーフォーマー社員をクラスタリング

多彩なデータ収集方式

RTmetrics®は導入型のソフトウェアです。お客様のシステム環境にフィットしたデータ収集方式をご提供いたします。

タグ (ビーコン) 型	パケットキャプチャ型	Webサーバ型
<ul style="list-style-type: none"> ● 小規模であれば始めやすい ● サーバリクエストがない動作 (キャッシュ等) も捕捉可能 	<p>HTMLソースを編集する必要がない/PDFやクローラーなどタグでは捕捉困難なデータ収集に向いている/設置後のメンテナンス性が高い (Webコンテンツの改変によるデータ収集の影響を受けづらい)</p> <p>リアルタイム/大量データの処理に強い</p>	<p>過去データのさかのぼりが可能</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● サイトが増えるとタグ管理負荷が重い ● SaaSサービスによる利用が前提→利用にデータの外部保存を伴う ● PDFダウンロードなど一部の動作の捕捉が困難 ● 社内サイトのデータ収集の手段として適さない場合がある 	<p>サーバリクエストのない動作は捕捉出来ない/オンプレミスとして提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NWの知識を要する ● クラウドを利用している際にはNW機器経由ではなくソフトウェア的な手法でアクセスデータを収集する仕組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生ログを元にデータ処理するため解析内容がログに含む情報量に限定される ● バッチ処理のためリアルタイム性にかける

